

政策 1 暮らしを支える快適なまちづくり（都市基盤の整備）

施策 1 - 1 道路網の整備・充実

施策のねらい

道路が整備され、日常生活の安全性・利便性が向上します。

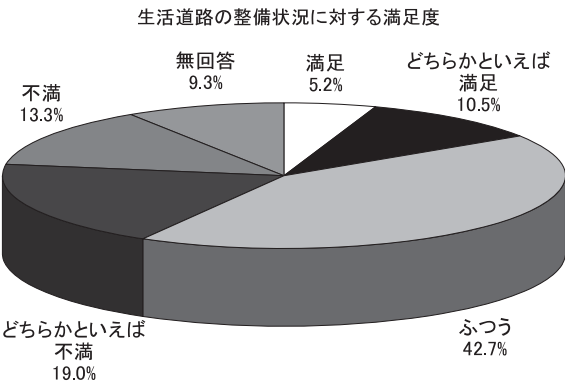
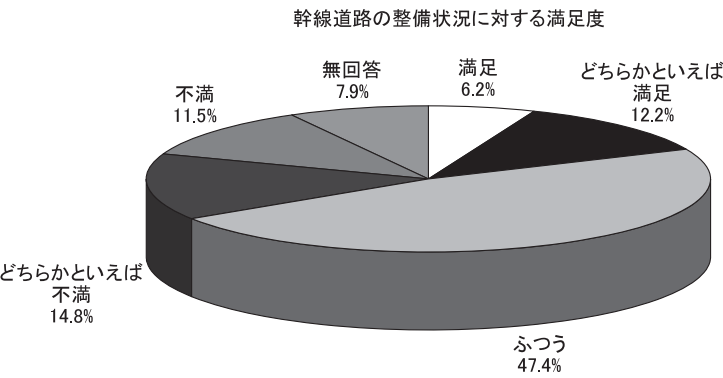
施策の成果指標（施策の目的達成度を示す指標）

	単位	基準年度 現状値	平成 24 年度 目標値	指標 分類
◇市道整備状況の満足度	%	62.1	→	成果

市民の市道整備状況に対する満足度を見る指標です。市民アンケートで、幹線道路及び生活道路の整備状況について「満足」「どちらかといえば満足」「ふつう」と回答した市民の割合の平均です。

施策をとりまく環境変化

- ⊕ 合併により、一体性のある道路網整備が必要
- ⊕ 交通渋滞の増加
（国道 126 号、県道（成東酒々井線、成東鳴浜線）など）
- ⊕ 求められる交通弱者への対策
（道路のバリアフリー化など）
- ⊕ 郊外型商業施設が国道沿いに増加



施策を実現する手段（基本事業の構成）

基本事業名	基本事業のねらい	基本事業の成果指標 (基本事業の目的達成度を示す指標)
基本事業 1-1-① 幹線道路の整備と維持管理	●広域幹線道路に接続する幹線道路が整備・維持管理され、安全性・利便性が確保されます。	◆幹線道路の整備状況に対する満足度 ◆幹線道路の改良延長割合
基本事業 1-1-② 生活道路の整備と維持管理	●生活道路が整備・維持管理され、安全性・利便性が確保されます。	◆生活道路の整備状況に対する満足度



用語解説

- ◆道路のバリアフリー：人が自由に活動するとき障害になるものを「バリアー」といい、その障害を取り除くことを「バリアフリー」とよびます。道路の「バリアフリー」とは道にある障害をなくし、誰もが安心して歩けるように道路を作ることです。
- ◆広域幹線道路：国道・県道・広域農道です。
- ◆幹線道路：主要な市道（1・2級）です。
- ◆生活道路：広域幹線道路・幹線道路以外の市道です。

政策 1 暮らしを支える快適なまちづくり（都市基盤の整備）

施策 1 - ② 公共交通網の整備・充実

施策のねらい

公共交通網が充実し、利便性が高まります。

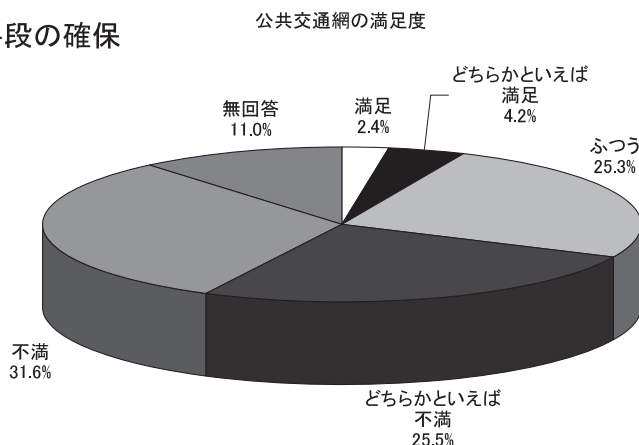
施策の成果指標（施策の目的達成度を示す指標）

単位	基準年度 現状値	平成 24 年度 目標値	指標 分類
◇公共交通網の満足度	% 31.9		成果

市民の公共交通網に対する満足度を見る指標です。市民アンケートで、市内外への公共交通機関（バス・電車）での移動について「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。

施策をとりまく環境変化

- ⊕ JR日向駅、JR成東駅、JR松尾駅の乗車人員の減少
- ⊕ 巡回バス、空港シャトルバス拡充要望の増加
- ⊕ バス事業者運行路線の乗客数減少に伴う、廃線及び便の減少
- ⊕ バス運行のない地域での高齢者の移動手段の確保
- ⊕ 市域全域での巡回バス運行要望の増加



施策を実現する手段（基本事業の構成）

基本事業名	基本事業のねらい	基本事業の成果指標 (基本事業の目的達成度を示す指標)
基本事業 1 - 2 - ① 鉄道の利便性向上	●鉄道の本数を維持し、通勤、通学、買い物や余暇などの活動が快適に行えます。	◆1日当たりの鉄道利用者数
基本事業 1 - 2 - ② 市内における交通手段の確保	●市内の交通手段が確保され、円滑に移動できます。	◆市内移動の交通手段に困っている市民の割合 ◆市内バス路線系統数 ◆バス運行状況の満足度
基本事業 1 - 2 - ③ バスでの主要都市へのアクセス向上	●バスでの主要都市へのアクセス本数が維持され、利用者が増加します。	◆1日当たりの主要都市へのバス利用者数



用語解説

◆バス事業者運行路線：民間バス事業者が市内で運行しているバスの路線です。

政策 1 暮らしを支える快適なまちづくり（都市基盤の整備）

施策 1 - ③ 防災・消防対策の充実

施策のねらい

市民の防災意識が高まり、地域の防災力が向上し、災害の被害が抑えられます。

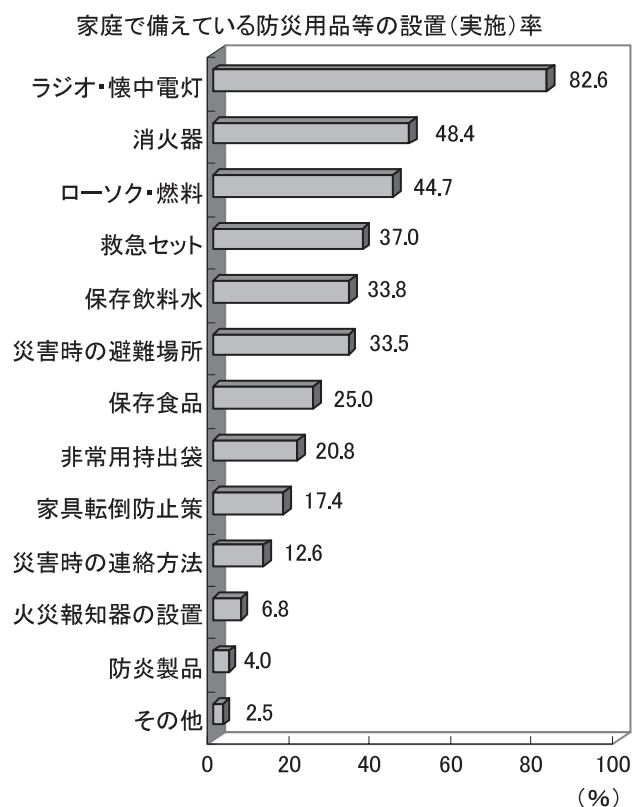
施策の成果指標（施策の目的達成度を示す指標）

	単位	基準年度 現状値	平成 24 年度 目標値	指標 分類
◇災害の面で安全に暮らせると思う市民の割合	%	65.8	→	成果

市民の災害に対する安心度を見る指標です。市民アンケートで、自分が住んでいる地域について「安心」「ほぼ安心」と回答した市民の割合です。

施策をとりまく環境変化

- ⊕ 高齢化の進展による災害弱者の増加
- ⊕ 合併による消防団 4 支団制の採用と早期統一（一本化）への動き
- ⊕ 市民の相互扶助意識の低下
- ⊕ 自分たちの地域を自分たちで守るという意識の低下
- ⊕ 地域の交流・隣近所付き合いの減少
- ⊕ 消防団員のサラリーマン化、高齢化などによる体制の弱体化及び新入団員数の激減
- ⊕ 財源などの問題により風水害、土砂災害危険箇所の整備困難化の傾向
- ⊕ 合併による防災行政無線の早期統合化



施策を実現する手段（基本事業の構成）

基本事業名	基本事業のねらい	基本事業の成果指標 (基本事業の目的達成度を示す指標)
基本事業 1-3-① 防災体制の整備	●関係機関が連携し、災害発生時に迅速な災害復旧活動ができる体制が整備されます。	◆自主防災組織数 ◆災害協定件数 ◆保存食の備蓄量
基本事業 1-3-② 消防力の充実	●消防団員及び常備消防職員の確保により、効率的な消防活動が実施され消防力が向上します。	◆消防団員の充足率 ◆消防団員の火災出動率 ◆消防団員の平均年齢 ◆常備消防職員の充足率
基本事業 1-3-③ 防災意識の向上	●市民の災害に対する意識が高まり、災害に対する備えができます。	◆災害について、何らかの備えをしている世帯の割合
基本事業 1-3-④ 治山・治水対策の促進	●風水害による浸水などの被害が抑えられます。	◆日降水量 100mmクラスの風水害における床上・床下浸水家屋数 ◆治山治水対策年間整備箇所数

用語解説

- ◆ 自主防災組織：いざ災害が起こったときに「自分たちのまちは自分たちで守る」という地域住民の自衛意識と連帯感に基づいて、区会、自治会単位で自主的に活動する組織です。
- ◆ 災害協定：大規模災害時の応急対策活動に関して、緊急物資や人的支援の協力体制を確立するため、他自治体や公共的団体、民間と協定を取り交わすことです。
- ◆ 常備消防職員：24 時間体制で、消防、救急業務に従事する専門の職員です。

政策 1 暮らしを支える快適なまちづくり（都市基盤の整備）

施策 1 - 4 都市の整備

施策のねらい

地域性を活かした機能的な土地利用がされ、利便性が向上します。

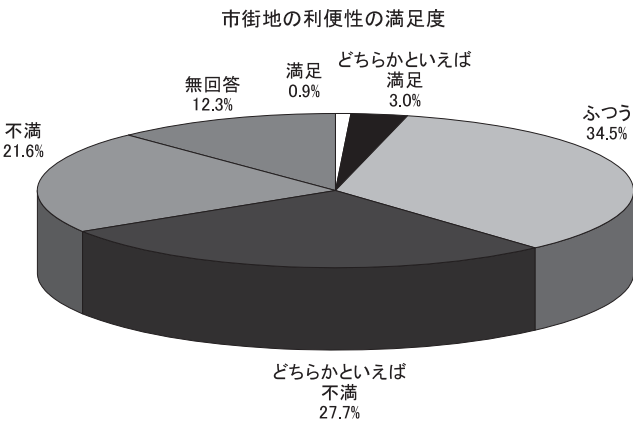
施策の成果指標（施策の目的達成度を示す指標）

単位	基準年度 現状値	平成 24 年度 目標値	指標 分類
◇市街地の利便性に対する満足度	% 38.4	→	成果

市民の市街地の利便性に対する満足度を見る指標です。市民アンケートで、市内にある市街地の利便性について「満足」「どちらかといえば満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。

施策をとりまく環境変化

- ⊕ 中心市街地の空洞化による商店等の減少
- ⊕ まちづくり 3 法の動向変化
（都市計画法改正、大店法の運用見直し、中心市街地
活性化法の制定）
- ⊕ 景観法の制定
- ⊕ 財源等の問題により進まない社会資本整備



施策を実現する手段（基本事業の構成）

基本事業名

基本事業のねらい

基本事業の成果指標 (基本事業の目的達成度を示す指標)

基本事業 1 - 4 - ①
市街地の整備

●都市としての機能や利便性が整い人々が集います。

◆市全人口に対する既成市街地の人口の割合

基本事業 1 - 4 - ②
駅周辺の利便性の向上

●駅の利便性が向上します。

◆駅の利便性に対する満足度

